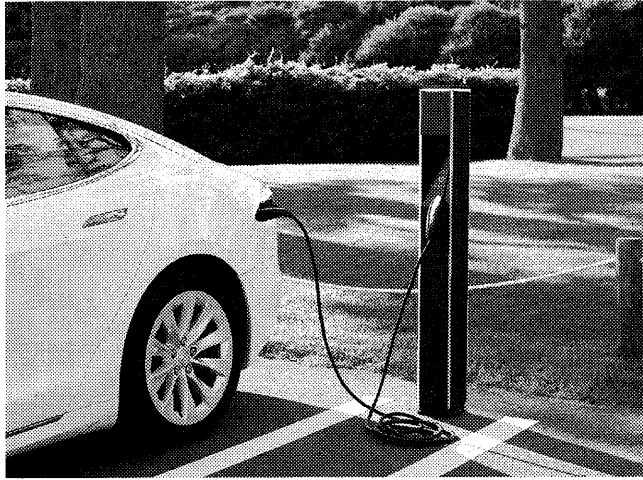




●東京支社
 東京都中央区
 銀座5の9の13
 銀座菊正ビル
 電話 03(3572)3601
 FAX 03(3572)3603
 毎週金曜日に掲載
 します

プラゴ



景観になじむ「プラゴバー」

EV充電インフラ整備

電気自動車(EV)の充電サービスを手掛けるプラゴ(本社東京都品川区、大川直樹社長)は、同社が開発するEV充電器のインフラ整備を強化している。利用者が再生可能エネルギー由来の電気を選択できるようなるなど、独自のサービスを拡充。宿泊施設など移動の目的地をターゲットに設置を拡大する。EVの普及促進を後押しし、脱炭素社会の実現を目指す。

(東京・佐々木 潤)

開発する充電器「プラゴバー」は、幅15センチ、高さ1.65メートル、奥行き15センチのシンプレな柱型。外装は木質やコンクリート素材など幅広くそろえ、設置する景観に

溶け込めるのが特徴。このほか、壁面型や駐車場のクルマ止めの代替となる形状なども展開する。

宿泊施設やゴルフ場など企業向けに提案を強化する。現在名古屋に駐在員を置き、営業活動を強化している。

デザイン性の高さを売りに、海外展開にも注力する。このほど、シンガポール陸上交通庁に美しい景観と充電インフラの両立に関する提案書を提出した。排ガス規制を強化するインドへの展開にも意欲を示している。

開発する充電器「プラゴバー」



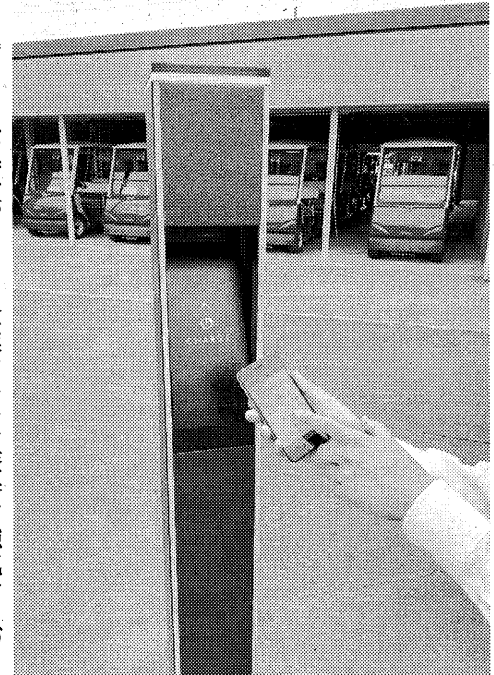
大川直樹社長

再エネ 電気活用 移動目的地で可能に

ど、移動の目的地をターゲットに設置を拡充している。従来の充電スポットは、サービスエリアなど移動の中継地に集中しており、利用者は給電場所を探す手間があった。目的地に駐車している間に充電できれば利用者の利便性が高まり、施設側としてもおもてなしの一環として導入メリットがある。

はウェブから空き情報を確認し、予約できる。システムをアップデートすることで、充電器を設置後も機能拡充できるのが強みだ。ちかく、充電する電気を再生可能エネルギーと一般のエネルギーから選べるサービスを始める計画。再エネ事業者から調達する電気を、施設内の太陽光パネルで発電する電気などを使う。詳細は8月に発表する。

大川社長は「ユーザー(EV市場に)迎え入れるため、続けたくなる未来をつくりたい」と話している。同社は、80年以上の歴史を持つ自動車のブレーキ部品製造・大川精機(せいらい)工業の子会社として、2018年に創業した。100年に1度の大変革が進む中、次世代の成長につなげる。



自治体と連携し、EVレンタカーを活用して観光や移動をサポートする取り組みも計画している。充電すると近隣施設で利用できるクーポンをアプリに配信するなど、充電を通じてEVユーザーが楽しめる体験づくりに入る。